

学校推薦型選抜 解答例 令和6年度

小論文

解答例

小学生を対象としたスポーツの全国大会は様々な種目で行われている。そこでは記事にも書かれている通り、勝利至上主義による過剰な指導が問題となっている。例えば、指導者による体罰や暴言、過熱する保護者の期待、そういったことによる児童のバーンアウトやドロップアウトである。現在、子どものスポーツ離れは顕著であり、一部の勝者を作り上げる全国大会の在り方には疑問が投げかけられている。こういった状況は望まれることなく、豊かなスポーツライフとは程遠いと考えられる。

解答としては、廃止に賛成の立場で述べることを期待する。その根拠が具体的に示され、さらに、教職や教育支援職を目指す立場から自身の考えを述べていることが望ましい。

- ・指導者の体罰や暴言
- ・レギュラーとそうでない児童の試合への出場機会の不平等
- ・「スポーツ毒親」に代表されるような、過剰な我が子への期待
- ・野球肘に代表される児童の故障
- ・児童のスポーツ離れによる体力・運動能力の低下
- ・発育発達の観点から多種目実施が望まれる学童期において、1種目のみの活動となる など

【教職】

体育授業や健康安全・体育的行事では、そこに参加する児童がみな活躍することが期待されている。スポーツの全国大会は教育課程外の取り組みであるが、同じ学校の児童でチームを作っている少年団やクラブも多いため、そこでの取り組みは学校教育にも影響を及ぼす。

例えば、勝利至上主義により勝つことに固執した児童は、体育授業においても勝利至上主義を持ち込むかもしれないし、勝つためにルールを守らないかもしれない。スポーツ活動を優先して学校での学習が二の次になる恐れもある。一方でバーンアウトした児童は、体育授業や行事に熱心に望まないかもしれない。運動・スポーツを楽しむ体育授業を実践する教員の立場からは、全国大会の廃止に賛成する。

【教育支援職】

地域や学校で児童のスポーツ活動をサポートする立場から、すべての児童にスポーツの魅力を味わってほしい。しかしながら、全国大会では最終的に勝ち残るのは1名(1チーム)であり、ほとんどの児童は負けてしまう。そういった環境よりも、トーナメント戦ではなくリーグ戦などにより、地域の仲間とたくさん試合ができ、勝ったり負けたりを繰り返しながら成長する方が児童にとって豊かなスポーツライフといえる。多くの児童がスポーツの魅力を味わえる環境を作っていく教育支援職の立場としては、全国大会の廃止に賛成する。

一方で、廃止に反対の立場であっても、上述の問題状況の改善を前提としつつ、例えば競技力向上に資する、児童に目標を持たせる必要性などの根拠が明確に示していればよい。その根拠と教職や教育支援職とを関連づけて述べられていること。